

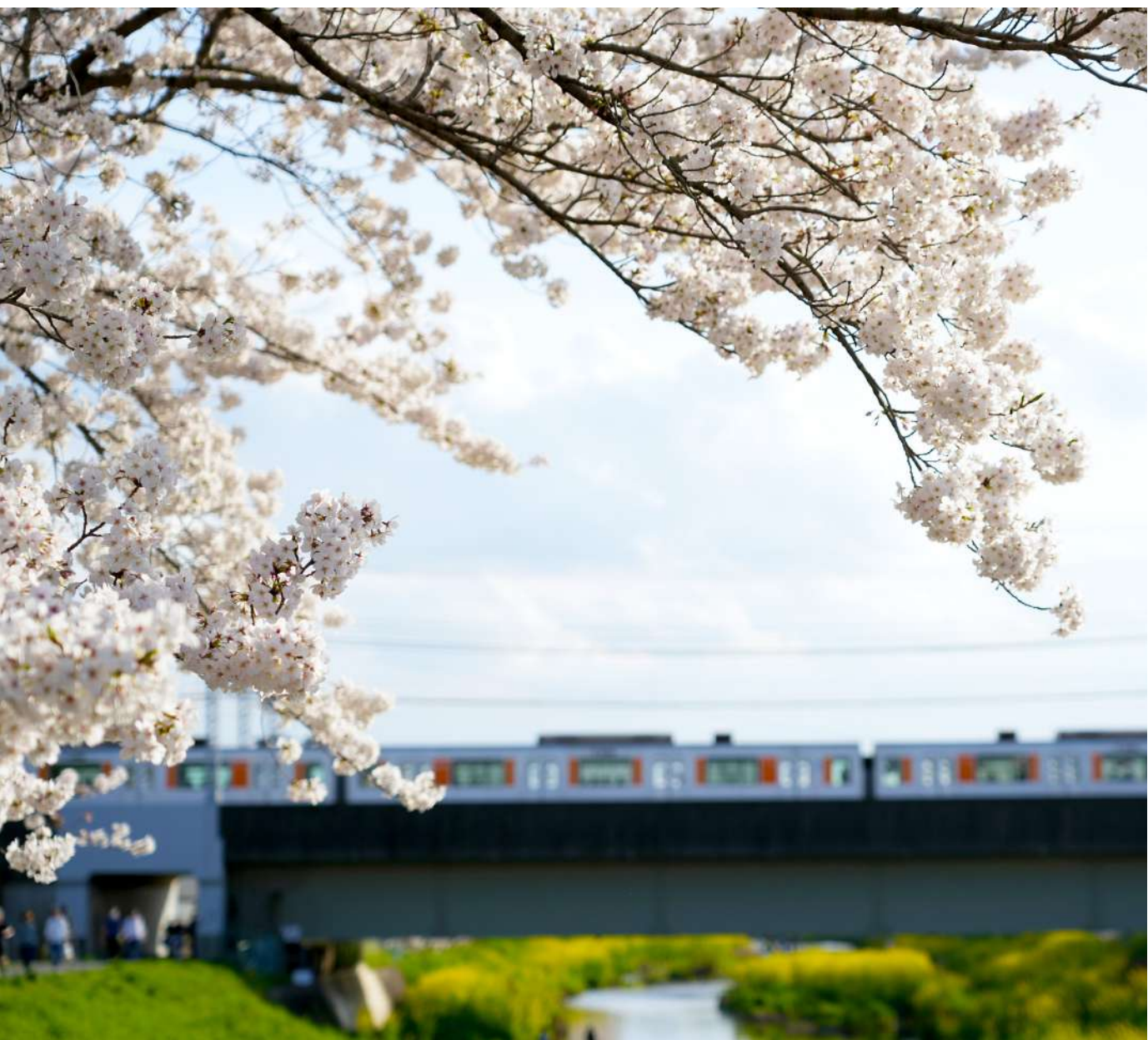
MUSASHINO FRONT ASAKA

“朝霞市の魅力”

わずかな時間で都心部へアクセスできるのに、

木々に、せせらぎに、坂なす小径に

武蔵野のみずみずしい面影を残すまち



#黒目川築堤（東上線黒目川橋梁付近）
#今の仕事のきっかけとなった思い出の地



#浜崎ドッグラン
#愛犬との憩いの場所



#朝霞の冬
#大好きなぼたんがいる空間が好き



#イチョ並木道
#季節ごとの風景はまるで「名画」



#朝霞駅南口
#街全体のゆったりした雰囲気が好き



#パティスリーモントレー
#数々の大会で賞を総なめにしたパティシエの
#絶品スイーツを堪能



#黒目川花まつり
#今年も綺麗に咲きますよう



#ラキアショップ
#ぼたんグッズやここにしかない雑貨、
#カフェでゆっくり読書したり、よい空間



#さかうえ農園
#にんじん堀り体験

メンバーの投稿の紹介や市の
魅力を発信しています。



ASAKA_CITY.PROMOTION
instagram



#朝霞の夏
#彩夏祭とラムネと青空



#滝の根公園の吊り橋
#この場所は桜が一番美しい



#朝霞の森
#自然いっぱい!とにかく遊びに行ってみて!

朝霞市民プロモーションミーティングは、「朝霞が好き!」「朝霞の魅力をもっと広めたい!」
という思いで集まった市民の有志チームです。
メンバーは「#わたしのあさか時間」をつけて、朝霞で過ごす日常の魅力を Instagram で発信しています。

発行元／朝霞市 〒351-8501 埼玉県朝霞市本町 1-1-1
☎048-463-1111（代表）
発行日／令和 7（2025）年 3 月
編集／朝霞市市長公室シティ・プロモーション課

※掲載されている内容は、発行日時点のものであり、変更される場合があります。



シティ・セールス朝霞ブランド

朝霞市では、朝霞らしさ、市の魅力を市内外に発信するため、市の誇れる地域資源をブランド認定しています。

認定期間：令和 6 年 4 月 1 日～令和 12 年 3 月 31 日



島の上公園 展望テラス

シティセールス朝霞ブランドロゴデザイン

交通利便性が高いことに加え、武蔵野の風景や自然環境が保たれているまち朝霞市を表現するため、「街並み」と「黒目川」をモチーフに2つのロゴデザインを作成しています。



ロゴマーク
「街並み」



ロゴマーク
「黒目川」

自然環境と利便性のちょうどいいバランスが、暮らす人それぞれの日常に寄り添う「むさしのフロントあさか」

都心から 20 km 圏内、池袋駅から最短 16 分と、通勤・通学や買い物に便利な立地であることに加え、武蔵野のおおらかな自然が残された緑ゆたかなまち、朝霞市。黒目川をはじめとする 4 つの河川が市内を流れ、四季折々の美しい風景が、暮らす人それぞれのライフステージを彩ります。

家の近くで、採れたての産直野菜が買える。夏には、大きなカブトムシがとれる。遊具の面白い公園や手つかずの自然の懷で、こどもたちをのびのびと遊ばせられる。おしゃれなキッチンカーや飲食店、新しいイベントにワクワクする。たくさん歩いて疲れたら、木陰のベンチでひとやすみ。毎日の暮らしがちっと楽しい。特に予定がなくても、休日が待ち遠しい。そんな「むさしのフロントあさか」へ、ようこそ。



埼玉県朝霞市の基本データ



人口：14 万 5,915 人（令和 7 年 3 月 1 日現在）

市の面積：18.34 km²

市の木：ケヤキ

市の花：ツツジ

主な利用駅：東武東上線朝霞駅・朝霞台駅（東京メトロ有楽町線・副都心線直通）、JR 武蔵野線北朝霞駅

昭和 42(1967) 年 3 月 15 日に市制が施行され、埼玉県で 27 番目の市となりました。平成 29(2017) 年に市制施行 50 周年を記念し、ブランドタグライン「むさしのフロントあさか」、PR 動画「OKAERI」、キャラクター「ぼぼたん」が誕生。令和 3 (2021) 年には東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の射撃の会場市となりました。



四季の主なイベント

【春】黒目川花まつり (P6)

【夏】朝霞市民まつり「彩夏祭」 (P7)

【秋】アサカストリートテラス (P9)

【冬】あさか冬のあかりテラス (P9) / 北朝霞どんぶり王選手権

※イベントの開催については変動の可能性があります

No.2

本田美奈子・
モニュメント
(文化)



流れる音楽は、本田美奈子さんの「新世界」



本田美奈子・記念館

膝折町 4-12-37
入館料：無料
開館日についてはHPで
ご確認ください。



今も響き渡る、
音楽への想いに耳を澄ませて

本田美奈子。さんが、幼いころから亡くなるまで住んでいた朝霞のまちをこよなく愛していたことはよく知られている。本モニュメントは、アイドルからミュージカルまで幅広いジャンルの音楽活動を通して、多くのファンや芸能関係者に愛された本田さんの功績をたたえと共に、病床にあっても難病で苦しむ人たちを元気づけるメッセージを発信するなど、その真摯な生き方が多くの人に勇気と感動を与えたことから、朝霞駅南口駅前広場に建てられた。

モニュメントには、本田美奈子。さんが病床で書いた直筆の詩「笑顔」と顔写真、活躍の経歴やサインなどが刻まれている。また、左側に設置されたボタンを押すと、本田さんの美しい歌声が流れ、市内外からさまざまな人が行き交う駅前広場に、安らぎをもたらしている。



朝霞市と「武蔵野」

武蔵野とは、関東平野西部の台地を指す言葉で、朝霞市は、武蔵野台地の北東の端に位置しています。市の中央部を流れる黒目川によって開削された河岸段丘の崖地形からは各所で湧き水が見られ、古くから人々が生活した痕跡が発見されています。昭和40年代までは市内の各所で武蔵野の風景が見られましたが、都市化により、武蔵野の面影を探すのも難しくなってきました。市内の国指定重要文化財「旧高橋家住宅」や市指定天然記念物「湧水代官水」は、古くから住み継がれてきた、この地の魅力を今に伝える貴重な存在となっています。

No.1

旧高橋家
住宅
(歴史)



年中行事・・・毎年同じ時期に同じように行われる、昔から伝わる行事のこと

三百年前の暮らしに、
思いを馳せるひととき

旧高橋家住宅は、江戸中期、18世紀前半の建築と推定される木造平屋建て・茅葺の農家建築である。周囲には、納屋や倉などの附属屋のほか、畑や雑木林が広がっており、武蔵野の農家の景観を今に伝えるものとして、敷地も併せて、国指定重要文化財に指定されている。

国内の数ある古民家の中でも、同じ場所に300年在り続けるという点で貴重な存在である。

旧高橋家住宅では、朝霞に古くから伝わる年中行事や、いも掘り体験など、さまざまな催し物を実施している。園内にはゆっくりとした時間が流れ、季節の花々を楽しみながら、江戸時代から営まれてきた暮らしに思いを巡らせることができる。

日頃からかまどに火を入れ、煙で燻すことにより、防虫の効果を得られ、茅を長持ちさせるという昔からの知恵を生かしている。



旧高橋家住宅(市HP)
根岸台 2-15-10



ボランティアの皆さんが、畑作業や園内の美化作業、希望者には園内のガイドも行っている。



No.4
朝霞市民まつり
さいかさい
「彩夏祭」
(行事)

毎年8月の第1日曜日を含む、
金、土、日の3日間開催される。



朝霞市民まつり「彩夏祭」
実行委員会HP

「朝霞の夏」の代名詞

例年市内外から約70万人もの来場者を集め、朝霞市を代表するイベントとして成長を続けている朝霞市民まつり「彩夏祭」。都市化が進み、コミュニティが希薄化していくことに懸念を感じた市民の有志が始め、自ら育んできた40年あまりの歴史がある。

本州で初めて開催された鳴子踊りの祭典である「関八州よさこいフェスタ」では、市内外の約100チームがよさこい鳴子踊りをステージや流し踊りで披露。市内のこどもたちが参加するチームもあり、「朝霞の文化」として次世代にも受け継がれている。

また、全国的にも珍しい市街地で開催される打ち上げ花火は大迫力で、会場が歓声に包まれる。

このほかにも、商工まつりや音楽演奏などのイベント、お祭りに欠かせないかき氷や焼きそばなどの出店もたくさんあり、幅広い世代が参加し、共に楽しみ、「朝霞の夏」を熱く盛り上げている。



No.3
黒目川
(景観)



ゆったりとした川の流れに、
ココロを預ける時間

市内をほぼ東西に流れ、川沿いには遊歩道が整備されている黒目川。散策やウォーキング、ジョギングなどを楽しむ多くの人が集まり、周辺の田園風景や新河岸川との合流地点のわくわく田島緑地などとともに、四季折々の景観が訪れる人たちの心を和ませる。

桜の開花時期に合わせて開催される「黒目川花まつり」は、約200本の桜並木と地元のグルメを目前に、毎年4万人ほどが来場し、思い思いにお花見を満喫する。

このほかにも、夏にはこどもたちが浅瀬で水遊びし、秋には紅葉、冬には野鳥がみられるなど、一年を通して、水辺ならではの豊かな自然に親しむことができる、市民の憩いの場となっている。

黒目川沿いの緑のスポットをつなぐ全6コースの「くろめがわグリーントレイルマップ」を片手に、のんびりと散策を楽しむのもおすすめ。



くろめがわグリーントレイル
マップ(市HP)





シンボルロードがオープン
しました！(市HP)

【シンボルロード】令和2年2月、市道8号線(公園通り)を朝霞市役所南側から延長約680mにわたり、幅を30m拡幅・整備し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催時には、射撃の競技会場へと続く道となった。



歩くだけで、絵になる道

ケヤキ並木のある閑静な通りであり、ゆったりとした歩行空間やサイクリングロードのほか、緑豊かな広場なども整備され、朝早くから市民がウォーキングやジョギングなどを楽しんでいる。

周辺には、公園や学校、陸上競技場などの公共施設が多く、木陰の中を通学する児童・生徒、ベビーカーを押すこども連れの家族などの姿が多く見られる。

また、彩夏祭をはじめ、「アサカストリートテラス」に代表されるさまざまなテラスイベント、「あさか冬のあかりテラス」(イルミネーション)などの開催、キッチンカーの出店など、さまざまな場として活用され、まちににぎわいを生み出している。

No.6

公園通りとシンボルロード (生活)



No.5

にんじん (産品)



大正時代から、この先も

朝霞市におけるにんじんの栽培は大正時代から始まり、現在では指定産地に指定されており、県内でも有数の出荷量を誇る産品である。

「朝霞」に「にんじん」のイメージは、市内では既に定着しており、地元で栽培されたにんじんを素材とした菓子や食品、料理は様々な展開を見せている。

例年12月頃、冬ににんじんの収穫時期になると、市内の農家による「にんじん掘り体験」が行われる。こどもたちが土に触れ、普段はなかなか見かけない、葉付きのにんじんを収穫できる貴重な体験となっている。

都市農業が盛んな本市を象徴するような、緑が一面に広がるにんじん畑は、都心に近いながらもどこかほっとする、のどかなまちのイメージの一端を担っている。

朝霞の産直野菜が買える！



浜崎農業交流センター
(市HP)



「むさしのフロントあさか」を育てていく

MUSASHINO
FRONT
ASAKA

わたしたちは武蔵野を
守り、つくり、楽しむ活動を
すすめていきます。

「むさしのフロントあさか」が目指すもの

過去から大切に受け継いできた「武蔵野」の自然や文化を守っていくことはもちろん、朝霞市に暮らす皆さんが、積極的に現在の日常を楽しみ、新しい「武蔵野らしさ」を創造していくことで、その価値を未来へと引き継いでいくことへの願いがこめられています。

～ロゴタイプやシンボルマーク、イラストをぜひご活用ください～

むさしの フロント あさか

MUSASHINO FRONT ASAKA

むさしの フロント あさか
MUSASHINO FRONT ASAKA

ブランドロゴタイプ

武蔵野の自然環境を若葉のグリーンや空のブルーに託したデザイン。朝霞市を象徴するにんじんをオレンジのカラーへと託したデザインやモノクロバージョンもあります。

ブランドシンボルマーク「けやき」

大樹の幹から広がる2種類の若葉によって、朝霞市の自然環境と利便性の両方を表現。丸い点は自然環境、交差する線はコミュニティの広がりを表現しています。



ブランドシンボルマーク「のびねこ」

包容力あふれる「武蔵野」の懷で伸びやかに成長する生命の存在を表現しています。

朝霞市キャラクターぼぼたん

黒目川のほとりに咲くたんぽぽから生まれた妖精のおとこのこです。イラストは全158ポーズ。LINEスタンプもあります。



LINEスタンプは
こちら

「むさしのフロントあさか」のロゴタイプやシンボルマーク、ぼぼたんは、朝霞市の魅力を広く市内外にアピールするためにつくられたものです。朝霞市のPR、産品、店舗、事業所等のPRなど朝霞市の認知度向上および産業振興を目的とした活動に幅広くご利用いただけます。詳しくは市ホームページよりガイドラインをご確認ください。



No.7

まちなかベンチ
(生活)



みどりのテラス(シンボルロード中央広場)



木かげのトンネル



雲形ベンチ



ウォークブルな
取り組みを
ご紹介!(市HP)

まちと目線を合わせるベンチ

朝霞市では、シンボルロードや黒目川沿い、北朝霞駅周辺などに、景観を活かしたベンチやテラス、ミニパークなどが次々と設置されている。

特色あるベンチは、市が主体となって設置するだけでなく、民間主体や官民協働により設置されており、朝霞のまちをより心地よい空間にしたいという思いや民間の活力を感じられるものである。

市内のいたるところに「座れる場所」があることは、人々が歩き、憩い、集い、自然に親しむ場となり、まちにゆとりを生み出している。



ふとんかごベンチ



おうちのベンチ